

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

1920勝利の力で325三里塚へ

「中央本部」を僭称する、革マルおよびそれに追いつく一部反動分子の千葉地本破壊「オルグ」は、地本内一支部・一四〇〇名組合員の「千葉地本破壊を許すな」を合言葉にした怒りにもえた激しい追及と反撃の闘いによって完膚なきまでに粉砕された。こうした全支部での「オルグ団」撃退行動の前に「中央本部」は、ついに排除の論理をむきだしにして、「千葉地本執行権停止」を「発動」した。

「執行権停止」を拒否する

われわれは、一九、二〇破壊「オルグ」を粉砕し勝利した確信にもとづいて、かかる不当・不法な「執行権停止」を糾弾し、拒否することをきっぱりと宣言する。

こんかいの、一九、二〇破壊「オルグ」の目的は、われわれの昨一二月以来の団結した闘いに追い詰められた、革マルおよびそれに追いつく一部反動分子による悪あがきであることをはっきりとみてとれる。

まさに、「執行権停止」という強権発動をするためにのみのアリバイ作りでしかなかったのだ。こうした「中央本部」のやり方こそ、動労を分裂させ、一地方組織を解体せんとするものであり、動労の自殺行為であるといえる。ましてや79春闘を前にしたこの時期に行うことこそ、春闘破壊分断攻撃であるといえる。動労を革マルの私物化、暴力支配の手にゆだねてはならない。

ひれつな組織破壊 戸別訪問を粉砕せよ

革マルおよびそれに追いつく一部反動分子は不正義であり階級的正義の前には無力である。千葉地本一四〇〇名組合員の団結の力は、一九、二〇破壊「オルグ」粉砕の闘いをもってその無力性を見事に実証したではないか。全国の組合員の皆さん決起せよ。一四〇〇の組合員の皆さん、危機に追い詰められた革マルおよびそれに追いつく一部反動分子による卑劣な「組織破壊のための団結署名」を強制する戸別訪問を家族ぐるみの闘いによって粉砕せよ。

反対同盟の支援にこたえ 三里塚現地へ 一九、二〇破壊「オルグ」を粉砕した勝利の要

因は、第一に一四〇〇名組合員の団結と怒りの決起である。第二に三里塚・芝山連合空港反対同盟と支援共闘の仲間達の決起である。

とりわけ、三里塚・芝山連合空港反対同盟は、森山運輸相の「二期工事年内着工」宣言という緊迫した情勢下のなか、農作業を休み、一九、二〇の二日間終日にわたって職場で共に闘ってくれたのである。

二期工事敷地内農民・石毛常吉さんは、津田沼支部へきた「オルグ団」に対し、心の底から怒りを燃やし「動労中央は、反対同盟の真の姿をみる。農民の声を聞け。千葉地本は俺達の仲間であり、『執行権停止』なぞ許さない」と抗議したのだ。われわれは、こうした反対同盟の支援・連帯に闘いをもって答えなければならぬ。このなかにこそ真の労農連帯を発展させ騒音と公害、農民殺しの三里塚軍事空港粉砕の展望が開かれるのであり、労働者 労働組合の進むべき道があるのだ。

千葉地本は、全国全階層の闘う労働者人民からひんしゆくを買ったかの悪名高き「反対同盟と一線を画する」なる反動的方針に明確に対決する方針を2・10第三二回臨大で決定し、動労の変質・私物化を阻止し、戦闘的伝統を守る立場から反対同盟との労農連帯をより強化し、三里塚・ジェット闘争を貫徹することを決意した。

さらに、3・12第五三回定地委において、千葉地本の路線的優位性と正義性を全国に実証するため、3・25三里塚現地に最大限動員で結集することを決定した。

全組合員の皆さん。3・25三里塚へ総結集し、千葉地本一四〇〇名組合員の揺ぎない団結力を全国に誇示しよう。成田運転区前一〇時三〇分(青年部は九時三〇分)に結集しよう。

325二期工 三里塚集安に総決起せよ。

成田運転区前 10時30分集合(青年部は9時30分) ↓ 11時 出発 ↓ 14時 三里塚オ公闘

全支部根こそぎ総決起で、千葉地本の正義と団結力をさし示そう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ!